

季節風

2015.7.17
No.12
山鹿市立鹿北中学校
文責：郡 一路

一学期を振り返って

早いもので、一学期の終業式を迎えました。一年生は、中学生として大きく環境が変化した中でのスタートでした。二・三年生は、それぞれ進級して、新鮮な気持ちでのスタートだったと思います。

三年生は、学級がすっかりとまとまり、最上級生として様々な行事、生徒会活動、部活動などでリーダーシップを発揮してくれました。三年生の一生懸命な姿、必死な姿は、一年生に、これからの進むべき道をはっきりと示してくれました。部活動という中学校生活の大きな部分を占めていた活動を引退した人もたくさんいます。これからは、**新たな目標**を自らが設定して、その目標に向かって一歩ずつチャレンジしていくことを期待しています。

二年生は、三年生という大きな存在があるので、前面に出る場面はあ

夏休みを有意義に

学校中心の生活から家庭や地域での生活が中心となる夏休み。自由な時間が増える分、計画性と意志の強さが求められます。暑さにも、自分にも負けずに生活を築いていきましょう。

夏休みを充実させるポイントとしては、まずは「**早起き**」です。「朝に勝つ!」、このことに一人一人がチャレンジしてほしいと思います。夏の朝の爽やかな空気とともにぜひ一日のスタートを切っていきましょう。

そして、次に大切なことは、「**目標と計画**」です。すでに、夏休みの計画は立ててあると思いますが、「朝起きたとき、今日一日、何をすることがはっきりしている」、このことが特に大切です。目標と計画があれば、少しづらいきつなくても努力できるものです。逆に何もなければ、楽な方向に流されていってしまいます。努力するのも自分、流されるのも自分です。自分で自分をコントロールする強さをもって、さらに、健康、安全には十分注意して、有意義な夏休みにしていきましょう。

まり多くなかったと思います。着実に力をつけてきているはずですよ。いよいよ、部活動などで、**リーダーシップ**を発揮することとなります。まずはその自覚をもちましょう。十五日には、第一回のリーダー研修を行いました。たくさんの方がリーダーとして成長し自治力を発揮して目の前の課題を自分たちで解決する力をつけていくことを期待しています。

一年生は、中学校生活に慣れることで精一杯の一学期であったと思います。中一ギャップという言葉があるように、小学校との生活の違いに戸惑うこともあったのではないのでしょうか。そんな中でも、必死に先輩たちについていこうとする姿をいろいろなところで見ることができました。一年生にとって大切なことは、「学習習慣を身につけることができ

たかどうか」ということです。学校でも、家庭でも**学習習慣の確立**が特に大切です。全員が習慣化できることを期待しています。

さて、話は変わりますが、学校は何のためにあるのでしょうか。もし、「勉強する」ためだけなら学校はいらないかもしれません。学校は「**一人では学べないもの、身につけられないものを、人との関係の中で学ぶことができる場**」であるところに大きな意味があるのではないのでしょうか。学校から思い浮かぶキーワードは、「ななかま」「友情」「切磋琢磨」「感動」「絆」「思いやり」「挑戦」・・・これらは、人との交流や関係の中でしか、身につけられないものばかりです。

十名が信頼し合い、前進する鹿北中」とあります。この目標の中にある「**信頼し合い**」というのも、人との関係の中でしか築くことはできません。

一学期、たくさんの方がありましたが、八十名の生徒一人一人が、自分たちで決めた**生徒会目標「八十名が信頼し合い」**が、どこまで達成できたのか、どういふことを、ぜひ見つけたいと思います。きっと、そこには、たくさんの方の顔が思い浮かぶのではないのでしょうか。

そして、身近な「ななかま」「先輩」「後輩」をさらに大切にできる一人一人になってほしいと思います。

八十名全員がお互いを「信頼し合える」「関係を築くこと」ができたと言える鹿北中学校をみんなできつくりたいと思います。